


安全データシート

改訂日:2022年9月14日

1. 製品及び会社情報	
化学品の名称	エチレングリコールモノエチルエーテル
推奨用途	試験研究用
会社名	米山薬品工業株式会社
住所	大阪市中央区道修町2丁目3番11号
電話番号	(06)6231-3555(大阪・本社) (03)3246-2311(東京) (0268)22-5910(上田) (052)504-2221(名古屋) (082)537-0290(広島)
整理番号	AD0283
2. 危険有害性の要約	
GHS分類	
物理化学的危険性	引火性液体:区分3
健康に対する有害性	急性毒性(吸入:蒸気):区分4 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性:区分2B 生殖毒性:区分1B 特定標的臓器毒性(単回ばく露):区分1(中枢神経系、血液系、腎臓、 肝臓) 特定標的臓器毒性(反復ばく露):区分1(血液系、精巣)
ラベル要素	
絵表示又はシンボル	
注意喚起語	危険
危険有害性情報	引火性液体及び蒸気 眼刺激 吸入すると有害 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ 中枢神経系、血液系、腎臓、肝臓の障害 長期にわたる、又は反復ばく露による血液系、精巣の障害
注意書き	【安全対策】 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁煙。 容器を密閉しておくこと。 容器を接地すること/アースをとること。 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用すること。 火花を発生させない工具を使用すること。 静電気放電に対する予防措置を講ずること。 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 取扱後はよく手を洗うこと。 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。 【応急処置】 皮膚(又は髪)に付着した場合:直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。 吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が続く場合:医師の診断/手当てを受けること。 ばく露又はばく露の懸念がある場合:医師の診断/手当てを受けること。 気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。 火災の場合:消火するために適切な消火剤を使用すること。 【保管】 容器を密閉し、換気のよい涼しい場所で施錠して保管すること。 【廃棄】 内容物/容器を規則に従って廃棄すること。
3. 組成、成分情報	
化学物質・混合物の区別	化学物質
化学名又は一般名	エチレングリコールモノエチルエーテル
別名	エチルセロソルブ, 2-エトキシエタノール
化学式	C ₂ H ₅ OCH ₂ CH ₂ OH
化学物質を特定できる一般的な番号	CAS RN:110-80-5
成分及び含有量	95%以上
官報公示整理番号(化審法/安衛法)	(2)-411 (2)-2424 / 2-(8)-42 2-(8)-44
その他	HSコード:2909.44
4. 応急措置	
吸入した場合	新鮮な空気のある場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は医師を呼ぶこと。
皮膚に付着した場合	直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぎ取り去ること。

眼に入った場合	<p>皮膚を速やかに洗浄すること。 気分が悪い時は医師を呼ぶこと。 皮膚刺激があれば、医師の診断、手当てを求めること。 脱いだ衣類を再使用する前に洗濯し汚染除去すること。 コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。洗浄を続けること。 水で数分間、注意深く洗うこと。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。 速やかに口をすすぎ、医師の診断を受けること。 眼・鼻・喉の刺激。眼のかすみ、咳、し眠、頭痛、息切れ、咽頭痛、脱力感、腹痛、吐き気、嘔吐。遅発性症状：中枢神経系の抑制。 救助者は、状況に応じて適切な保護具を着用する。 医学的な経過観察が必要。</p>
<p>飲み込んだ場合 急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候症状</p>	<p>速やかに口をすすぎ、医師の診断を受けること。 眼・鼻・喉の刺激。眼のかすみ、咳、し眠、頭痛、息切れ、咽頭痛、脱力感、腹痛、吐き気、嘔吐。遅発性症状：中枢神経系の抑制。 救助者は、状況に応じて適切な保護具を着用する。 医学的な経過観察が必要。</p>
<p>応急処置をする者の保護 医師に対する特別な注意事項</p>	<p>医学的な経過観察が必要。</p>
<p>5. 火災時の措置 適切な消火剤</p>	<p>小火災：二酸化炭素、粉末消火剤、散水、耐アルコール性泡消火剤 大火災：散水、噴霧水、耐アルコール性泡消火剤</p>
<p>使ってはならない消火剤 特有の危険有害性</p>	<p>棒状注水 極めて燃え易い、熱、火花、火炎で容易に発火する。 火災によって刺激性、又は毒性のガス及びヒュームを発生するおそれがある。 加熱により容器が爆発するおそれがある。 引火性液体及び蒸気</p>
特有の消火方法	<p>高濃度の場所では有機溶剤中毒のおそれがある。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。 引火点が極めて低い：散水以外の消火剤で消火の効果が大きい大きな火災の場合には散水する。 散水によって逆に火災が広がるおそれがある場合には、上記に示す消火剤のうち、散水以外の適切な消火剤を利用すること。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。</p>
消火を行う者の保護	<p>消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。</p>
<p>6. 漏出時の措置 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置</p>	<p>作業者は適切な保護具（「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけません。 関係者以外の立入りを禁止する。 風上に留まる。 低地から離れる。 密閉された場所に入る前に換気する。 環境中に放出してはならない。 河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。 少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。 少量の場合、吸収したものを集めるとき、清潔な帯電防止工具を用いる。 大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。 大量の場合、散水は、蒸気濃度を低下させる。しかし、密閉された場所では燃焼を抑えることが出来ないおそれがある。 危険でなければ漏れを止める。 漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。 蒸気抑制泡は蒸発濃度を低下させるために用いる。 すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。</p>
環境に対する注意事項	<p>密閉された場所に入る前に換気する。 環境中に放出してはならない。 河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。 少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。 少量の場合、吸収したものを集めるとき、清潔な帯電防止工具を用いる。 大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。 大量の場合、散水は、蒸気濃度を低下させる。しかし、密閉された場所では燃焼を抑えることが出来ないおそれがある。 危険でなければ漏れを止める。 漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。 蒸気抑制泡は蒸発濃度を低下させるために用いる。 すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。</p>
封じ込め及び浄化の方法及び機材	<p>少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。 少量の場合、吸収したものを集めるとき、清潔な帯電防止工具を用いる。 大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。 大量の場合、散水は、蒸気濃度を低下させる。しかし、密閉された場所では燃焼を抑えることが出来ないおそれがある。 危険でなければ漏れを止める。 漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。 蒸気抑制泡は蒸発濃度を低下させるために用いる。 すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。</p>
<p>7. 取扱い及び保管上の注意 取扱い</p>	<p>『8. 暴露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。</p>
技術的対策(局所排気、全体換気等)	<p>『8. 暴露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。禁煙。 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。</p>
安全取扱注意事項	<p>接触、吸入又は飲み込んではいけません。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 ヒューム、蒸気、ミスト、スプレーの吸入を避けること。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 『10. 安定性及び反応性』を参照。</p>
接触回避	<p>接触、吸入又は飲み込んではいけません。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 ヒューム、蒸気、ミスト、スプレーの吸入を避けること。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 『10. 安定性及び反応性』を参照。</p>
保管	<p>保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不燃材料で作ること。 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けないこと。 保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とすること。</p>
安全な保管条件	<p>保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不燃材料で作ること。 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けないこと。 保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とすること。</p>

容器包装材料	<p>保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設けること。</p> <p>保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。</p> <p>熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。-禁煙。</p> <p>冷所、換気の良い場所で保管すること。</p> <p>酸化剤から離して保管する。</p> <p>容器は直射日光や火気を避けること。</p> <p>容器を密閉して保管すること。</p> <p>施錠して保管すること。</p> <p>消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。</p>
8. 暴露防止及び保護措置	
許容濃度	
管理濃度	5ppm
日本産業衛生学会	5ppm 18mg/cm ³
ACGIH	TLV-TWA (5 ppm)
設備対策	<p>その他の防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。</p> <p>静電気放電に対する予防措置を講ずること。</p> <p>蒸気の発生源の密閉化、又は空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行なうこと。</p> <p>高熱工程で粉じん、ヒューム、ミストが発生するときは、空気汚染物質を管理濃度以下に保つために換気装置を設置する。</p> <p>この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。</p>
保護具	
呼吸器の保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
目の保護具	適切な眼の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な顔面用の保護具及び衣類を着用すること。 しぶきの可能性がある場合は、全面耐薬品性防護服(例えば、酸スーツ)及びブーツが必要である。
9. 物理的及び化学的性質	
物理状態	液体, 無色
臭い	芳香臭
pH	該当情報なし。
融点/凝固点	-70°C(流動点): HSDB(2005)
沸点又は初留点及び沸点範囲	135.6°C: HSDB(2005)
引火点	44°C(密閉式): ICSC(2003)
蒸発速度	該当情報なし。
燃焼性	非該当
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	下限 1.7vol %, 上限 15.6vol %(93°C) :ICSC(2003)
蒸気圧	0.5kPa(20°C): ICSC(2003)
相対ガス密度	3.11(空気=1): 計算値
密度及び/又は相対密度	0.931(20°C/20°C) :HSDB(2005)
溶解度	水: 混和: HSDB(2003) 有機溶媒: アルコール、アセトン、エーテル、液体エステルと混和。
n-オクタノール/水分分配係数	log Kow = -0.32(測定値): SRC:KowWin(2005)
自然発火温度	235°C: ICSC(2003)
分解温度	該当情報なし。
動粘性率(粘度)	1.84mPa·s(25°C)(粘性率) :HSDB(2005)
10. 安定性及び反応性	
反応性、化学的安定性	通常を取扱温度、圧力の下で安定。
危険有害反応可能性	<p>強酸化剤と反応し、火災や爆発の危険をもたらす。</p> <p>アルカリ性物質と反応する。</p> <p>銅、アルミニウムなどの軽金属及びその合金を腐食する。</p> <p>高温、混触危険物質、銅、アルミニウムとの接触。</p> <p>強酸化剤、強アルカリ。</p> <p>燃焼により、一酸化炭素、二酸化炭素。</p>
避けるべき条件	
混触危険物質	
危険有害な分解生成物	
11. 有害性情報	
急性毒性	<p>経口 : ラットのLD₅₀値として、2,125-5,720 mg/kg の範囲内での複数の報告 (PATY (6th, 2012)、CICAD 67 (2010)、EU-RAR (2008)、NITE初期リスク評価書 (2007)、ECETOC TR95 (2005)、環境省リスク評価第4巻 (2005)、ACGIH (7th, 2001)、DFGOT vol. 6 (1994)、EHC 115 (1990)) に基づき、区分外とした。</p> <p>経皮 : ラットのLD₅₀値として、3,900 mg/kg (環境省リスク評価第4巻 (2005))、及びウサギのLD₅₀値として、3,311-15,200 mg/kg の範囲内での複数の報告 (CICAD 67 (2010)、EU-RAR (2008)、NITE初期リスク評価書 (2007)、ECETOC TR95 (2005)、環境省リスク評価第4巻 (2005)、CEPA (2002)、EHC 115 (1990)) に基づき、区分外とした。</p> <p>吸入: ラットのLC₅₀値 (4時間) として、15.2 mg/L (=4,119 ppm) (EU-RAR (蒸気) (2008))、16 mg/L (=4,336 ppm) (CICAD 67 (2010)、ECETOC TR95 (2005)) との報告に基づき、区分4とした。なお、LC₅₀値が飽和蒸気圧濃度 (4,936 ppm) の90%より低いいため、ミストを含まないものとしてppmを単位とする基準値を適用した。</p>

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

ウサギを用いたドレイズ試験において、軽度-中等度の紅斑、軽度の落屑がみられた (EU-RAR (2008)) との報告や、EUガイドラインに従った皮膚刺激性試験においては未希釈の物質の適用により刺激性なしとの報告があり (EU-RAR (2008)、NITE初期リスク評価書 (2007))、EU-RAR (2008) では本物質に刺激性はないと結論付けている。他にも刺激性なし又は軽度の刺激性との報告が複数ある (NITE初期リスク評価書 (2007)、ECETOC TR95 (2005))。また、本物質は、実験動物を用いた試験において、最悪でも軽微な刺激性を示しただけであり、皮膚に対する刺激性は殆どないと思われる (CICAD 67 (2010)) との記載がある。以上の結果から、区分外 (国連分類基準の区分3) とした。ガイダンスの改訂に従い区分を変更した。

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

ウサギを用いたドレイズ試験において、中等度の角膜障害、中等度の虹彩炎、中等度-重度の結膜刺激、瞬膜の壊死がみられたが、7日までに回復性を示した (EU-RAR (2008)) との報告がある。また、他のドレイズ試験において、中等度の刺激性を示したとの報告 (EU-RAR (2008)、NITE初期リスク評価書 (2007)) や、軽度の刺激性を示した (EU-RAR (2008)、NITE初期リスク評価書 (2007)、ECETOC TR95 (2005)、ECETOC TR64 (1995)) との報告がある。本物質は、実験動物を用いた試験において、最悪でも軽微な刺激性を示しただけであり、眼に対する刺激性は殆ど無いと思われる (CICAD 67 (2010)) との記載がある。以上の結果より、区分2Bと判断した。

呼吸器感受性又は皮膚感受性

呼吸器: :データ不足のため分類できない

皮膚: 皮膚感受性: OECDクライテリアに従ったマキシマイゼーション試験 (Magnusson and Kligman法) において感受性はみられなかったとの報告 (EU-RAR (2008)) がある。また、本物質は感受性を引き起こさないとの記載がある (CEPA (2002))。以上より、区分外とした。

生殖細胞変異原性

ガイダンスの改訂により「区分外」が選択できなくなったため、「分類できない」とした。すなわち、in vivoでは、マウス骨髄細胞の小核試験で陰性 (NITE初期リスク評価書 (2007)、環境省リスク評価第4巻 (2005)、CICAD 67 (2010)、EU-RAR (2008)) である。In vitroでは、細菌の復帰突然変異試験で陰性、哺乳類培養細胞の遺伝子突然変異試験で陰性ないし弱い陽性であるが、染色体異常試験、姉妹染色分体交換試験では陽性結果が多い (NITE初期リスク評価書 (2007)、環境省リスク評価第4巻 (2005)、CEPA (2002)、CICAD 67 (2010)、EU-RAR (2008)、PATTY (6th, 2012))。

発がん性
生殖毒性

データ不足のため分類できない。

マウスを用いた経口経路 (飲水) での連続交配試験において非常に高用量 (1,500 mg/kg bw/day) で生殖能力の有意な低下がみられた (環境省リスク評価第4巻 (2005))。

マウスを用いた経口経路 (強制) での催奇形性試験において非常に高用量 (1,800 mg/kg bw/day) で母動物毒性がみられていないが胎児で四肢、欠尾などの奇形が認められた (PATTY (6th, 2012))。ラット、ウサギを用いた吸入経路での催奇形性試験では母動物毒性については不明であるがラットで743 mg/m³、ウサギで600-688 mg/m³の濃度で胚吸収、心血管系の奇形がみられている (ECETOC TR95 (2005)、EHC 115 (1990))。ラットを用いた経皮経路での催奇形性試験において母動物毒性がみられない用量 (0.25 mL) において全胚死亡の増加、骨格変異の増加、胎児体重減少、心血管系の奇形、生存胎児数/腹の減少がみられた (EHC 115 (1990))。

以上のように母動物毒性がみられない用量において奇形がみられていることから、区分1Bとした。

特定標的臓器毒性 (単回暴露)

ヒトにおいては、経口経路では、本物質の約40mL誤飲で、意識喪失、緊張性痙攣と間代性痙攣の反復、血液生化学的には代謝性アシドーシスがみられ、治療により意識回復したが、次週に腎不全、第三週に肝障害、一ヵ月後に完治したが、その後も神経衰弱様の愁訴が続いたとの報告 (産衛学会許容濃度の提案理由書 (1985)、環境省リスク評価第4巻 (2005)、NITE初期リスク評価書 (2007)、PATTY (6th, 2012))、約100mLを摂取した事例で、摂取8時間後、精神錯乱、衰弱、嘔吐、深い頻呼吸、深刻な代謝性アシドーシスがみられ、その後回復したとの報告 (PATTY (6th, 2012)) がある。また、経口経路でヒトの消化管、中枢神経系、肺及び心臓に重度の毒性影響を示す (EU-RAR (2008))、ヒトへの急性影響は中枢神経系抑制及び代謝性アシドーシスである (PATTY (6th, 2012)) との報告がある。

実験動物では、ラットの経口投与で呼吸困難、立毛、衰弱、嗜眠、運動失調、ライジング、昏睡などであり、重症化又は死亡例において、胃腸の出血、軽度の肝臓障害、重度の腎臓傷害、血尿を示した (PATTY (6th, 2012))。また、死後、膀胱が血尿で膨満、腎臓は皮質尿細管の壊死を伴う極度の尿細管変性、ボーマン嚢腔の膨満、著しい鬱血などの報告 (EU-RAR (2008)、NITE初期リスク評価書 (2007)) があり、マウスなど他の実験動物においても経口経路で同様の毒性影響がみられる。吸入経路においても、マウスなど他の実験動物でも経口経路と同様の影響が報告されている (産衛学会許容濃度の提案理由書 (1985)、NITE初期リスク評価書 (2007)、環境省リスク評価第4巻 (2005)、ACGIH (7th, 2001)、EU RAR (2008)、PATTY (6th, 2012))。

なお、吸入ばく露の場合、区分1、経口投与の場合、区分2に相当するガイダンス値の範囲でみられた。

実験動物 (種の記載なし) の吸入ばく露で、精巣の傷害が見られたとの記載 (ECETOC TR64 (1995))、雄ラットに4,500 ppm、3時間吸入ばく露で、精巣重量の減少 (NITE初期リスク評価書 (2007)) との記載はあるが、詳細情報がなく、他の評価書で取り上げられていない。したがって、精巣への影響は不明確なため採用しなかった。

以上より、ヒトへの影響を重視し、区分1 (中枢神経系、血液系、腎臓、肝臓) とした。

特定標的臓器毒性(反復暴露)	ヒトでは本物質の吸入による職業ばく露に関する報告で、血液系、造血組織への影響(貧血、ヘモグロビン濃度及びヘマトクリット値の低下、顆粒球減少症、骨髄抑制)、並びに精子産生への影響(乏精子症、無精子症、受精能の低下)が複数報告されている(CICAD 67 (2010))。これらの疫学研究結果から、ヒトでの本物質ばく露濃度と血液毒性、精子形成阻害との相関性が高いことから、CICAD 67 (2010) では血液系と生殖器官が本物質のヒトにおける標的臓器として重要であるとの見解を示している。 実験動物でも、区分外の高濃度を吸入ばく露又は高用量を経口ばく露したラット及びマウスの試験で、血液系、精巣等雄性生殖器への毒性影響がみられており(ECETOC TR 64 (1995)、CEPA (2002)、CICAD 64 (2010))、ヒトでの影響を支持する知見とされている(CICAD 64 (2010))。よって、区分1(血液系、精巣)に分類した。
誤えん有害性	データ不足のため分類できない。
12. 環境影響情報	
生態毒性	短期: 甲殻類(オオミジンコ)の48時間EC ₅₀ >90mg/L(環境省生態影響試験、(急性)2002)から、区分外とした。 長期: 難水溶性でなく(水溶解度=1.00×106mg/L(PHYSROP Database、(慢性)2005))、急性毒性が低いことから、区分外とした。
残留性・分解性	良分解性
生体蓄積性	該当情報なし。
土壌中の移動性	該当情報なし。
オゾン層への有害性	当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。
13. 廃棄上の注意	
残余廃棄物	廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
14. 輸送上の注意	
国連番号	1171
品名(国連輸送名)	ETHYLENE GLYCOL MONOETHYL ETHER
国連分類	クラス3
容器等級	III
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	消防法の規定に従う。 危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載すること。 危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬すること。 危険物の運搬中、危険物が著しく漏れる等災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、もよりの消防機関その他の関係機関に通報すること。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
国内規制がある場合の規制情報	
陸上輸送	消防法の規定に従う。
海上輸送	船舶安全法の規定に従う。
航空輸送	航空法の規定に従う。
応急措置指針番号	127
15. 適用法令	
化学物質管理促進法(PRTR法)	第1種指定化学物質
毒物及び劇物取締法	毒物及び劇物に該当しない。
消防法	第4類引火性液体、第二石油類水溶性液体
労働安全衛生法	名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物(第57条及び施行令18条、第57条の2及び施行令18条の2)[エチレングリコールモノエチルエーテル(別名セロソルブ)] 危険性又は有害性を調査すべき物[エチレングリコールモノエチルエーテル(別名セロソルブ)] 危険物・引火性の物 第2種有機溶剤等 有害である物質(Y類)(施行令別表第1) 引火性液体 引火性液体
海洋汚染防止法	
船舶安全法	
航空法	
16. その他の情報	
参考文献	NITE-CHRIP(製品評価技術基盤機構HP) 16615の化学商品(化学工業日報社) 職場のあんぜんサイト(厚労省HP)
	記載内容のうち、含有量、物理/化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報 データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。